

大阪府男女共同参画審議会
第1回「おおさか男女共同参画プラン」評価・計画部会
議事概要（公開用）

開催日時：平成31年3月13日（水）15時00分から17時00分

場所：大阪府立男女共同参画・青少年センター3階

出席委員：

岩井 政道	大阪ガス株式会社 理事 人事部長
寺井 基博	同志社大学社会学部准教授
寺島 絵美	日本労働組合総連合会大阪府連合会 女性委員会副委員長
三成 美保	奈良女子大学副学長/研究院生活環境科学系教授
山中 京子	大阪府立大学地域保健学域教育福祉学類教授
山中 浩司	大阪大学人間科学研究科教授

会議の概要：

議事1 男女共同参画社会に関する府民意識調査について

1 フェイスシートの性別の選択肢について

- ・この調査は、女性の置かれている困難な状況などを明らかにする調査。まず性別というのを一つの基準というか、明らかにした上で調査をすることが非常に重要。ただし、当然性別を答えたくない人もいるので、「答えたくない」という選択肢を置くことは必要。
- ・「男性」「女性」以外の選択肢として、「その他」「答えたくない」が考えられるが、「その他」は排除している感じになるので、「答えたくない」の方が良いかと思う。
- ・文言として、「その他」は違和感がある。
- ・回答いただく前提として、「性自認で」という言い方でいいのか、一般の方によくわかるような表現を考えた方がいい。
- ・調査票の最初の前書きに、答えたくない場合は答えなくていい旨を明記する。
- ・設問の中でも女性に限定して聞いているものもあるので、性別を答えたくない人はどうするのかの整合性も必要。また、そもそも女性に限定する必要があるのか、要検討。

2 調査票の設計について

- ・社内で従業員の意識調査をした時は、ビックデータ分析の部署に依頼して、設問の聞き方から一緒に検討してもらった。その結果、今までと聞き方を変えた方がいい

ところがかかり出てきた。分析を意識した設問になるように、事前に検討した方が、後でいい結果が出ると思う。過去の調査との整合性は当然必要だが、近年統計調査の手法はかなり発達しているので、こういう質問の仕方でいいか、求めている分析にあう設問になっているかどうかについて、事前に相談、検討された方がいい。

3 分析について（有意差検定、多変量分析）

- ・調査結果について、有意差検定や、設問をカテゴリーごとにセットにして分析する手法の実施についても、検討してもいいのでは。
- ・検討の際は、こちらが何を知りたいのか、はっきりさせることが大事。

4 個別の設問について

■問3（「男は仕事、女は家庭」という考え方について）

- ・問3-3（「世間の多くの人はどう考えていると思いますか」）を聞く意味がわからない。問3と問3-1、3-2があれば分析はできるのでは。設問を増やす代わりに減らす対象として検討してはどうか。

■問4（結婚、離婚への考え方）

- ・同性間の結婚についてどう考えるかという設問も必要。
- ・問4の「(5) 自分の娘や身近な女性が科学者や技師、医師などの職業を目指すことに抵抗感がある」だけが(1)～(4)とは全然違うキャリアの話なので、違和感がある。後ろのキャリアの設問の方へ移動した方がいい。
- ・また、科学者、技師、医師など限定的なので、例えば「理系進学」など広い聞き方にした方がいいと思う。

■問5（男性、女性のどちらが担う方がいいか）

- ・選択肢の「(3) 日常の家事（食事の支度・洗濯、掃除）」については、もう少し実態に即して分けをした方が、リアルな実態を把握できる。もっと詳細に分けた方がいいと思う。

■問6（1日のうちで仕事、家事に要する時間）

- ・家事の中に育児、介護を含めて聞いているが、育児と介護は全然違うし、担い手となるジェネレーションの違いもある。可能であれば、いわゆる一般的な家事・育児という若いジェネレーションの問題と、介護という50代くらいからのジェネレーションの問題と分けた方がいい。

■ **問 7 (家族の中に介護を要する人がいる場合、または、もし家族が介護を要する状態となった場合、どのようにしたいか)**

- ・「自分の家族の中に介護を要する人がいる場合」という聞き方だと、「家族」の範囲が不明確。
- ・「家族・親族等」とするのがいいのでは。親しい友人同士でも介護はありえる。

■ **問 9 (女性が仕事に就くことについて、どう思うか)**

- ・なぜ選択肢を出産、育児に結び付けるのか、これを男性には聞かずに女性に聞くというのは、バイアスがかかっている。選択肢に、「自己実現」とか「お金を稼ぐため」とか、普通に仕事をする事に結び付くような選択肢を追加すべき。
- ・女性限定の設問にしているのはどうなのか。
- ・近年、男性の働き方や意識も変わってきているので、問 9 とは別の設問として男性がどう考えているか、男性の働き方についても質問しておくのは意味があると思う。
- ・男性が家事・育児・介護をする場合にネックとなっている点を聞くのがいいのでは。

■ **問 10 (あなたの職場には性別によって差があると思うか)**

- ・問 10 の選択肢「(8) 働き続けやすい雰囲気」について、「雰囲気」というよりは、両立支援制度とか性別に関わりなく評価する仕組みとか経営者の意識とか、具体的な選択肢にした方がいい。経営者が方針を決定すれば事業計画に入るので、その点は重要。

■ **問 11 (64歳以下の女性で無職の方へ、働きたいかどうか、働く場合の阻害要因)**

- ・「働きたいですか」に対して「いいえ」と答えた人の理由を聞いた方がいい。「いいえ」の理由の方が重要。
- ・そもそも女性、男性分けて聞くのも疑問。男性でも子育てのために仕事に影響する人もいる。女性にも男性にも聞いておくべき。

■ **問 16 (男性の家事、育児、介護、地域活動への参画)**

■ **問 17 (地域で社会活動に参加されていますか)**

- ・「地域活動」とあるが、今はネットなどで広範囲でいろいろな活動ができるので、時代にそぐわない気がする。
- ・問 17 では「地域で社会活動」とあるのに、問 17 - 1 の選択肢では国際交流なども入っている点も違和感がある。
- ・ボランティアや NPO での活動も含むのであれば、「地域活動」という表現は若い方にはわかりにくいと思う。「地域活動」という言葉は検討いただきたい。
- ・「社会活動 (NPO など)」という文言でいいのではないか。

■問25（性暴力・性犯罪被害）

- ・設問自体は非常に重要だが、この調査で聞くべきかという問題はあるので、しかるべき部署で聞いていただいた方が施策に活かせるのであれば、削除する設問と残す設問については事務局案のとおりで問題ないと思う。
- ・女性だけに聞いているが、これは大変問題があると思う。性暴力については、男性もトランスジェンダーの方も被害はある。
- ・回答の選択肢にも「答えたくない」を入れた方がいい。

■問28（用語、制度等の認知度）

- ・選択肢11は「DV防止法」ではなくあえて法律名をそのまま書いているが、一般には「DV防止法」で聞いた方がいいのではないか。
- ・選択肢の中に、「女性活躍推進法」と「候補者男女均等法」を入れるべき。
- ・「SOGI/LGBTQ」も選択肢に入れた方がいい。
- ・それぞれの用語等について「どこで知ったか」を問う設問を入れると、かなり設問数が増えるのでは。

■問30（男女共同参画社会の推進のため府や市町村が力を入れるべきこと）

- ・候補者男女均等法についても入れた方がいい。

■自由記載欄

- ・アンケートへのご提案等があればお書きください、なお、男女共同参画についてもご意見等あればお書きください、という聞き方でいいのでは。

5 新たに追加する設問

- ・（候補者男女均等法の話から）クオータ制度については聞かないのか。一番威力があるのはクオータ制度だと思うので、制度の詳細を調べたうえで、検討いただきたい。

6 今後

- ・ご意見を踏まえ、事務局において、全体の設問数を見たうえで、設問の追加や削除について検討し、調査票の案の形にして、審議会委員の皆様にご確認いただく予定。
- ・調査票は5月中旬には完成予定。
- ・設問の文言や書きぶりなど事務局との細かい調整は部会長に一任。